

会 報

No. 23

1986年 3 月

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

目 次

◆日本分子生物学会昭和 60 年度 評議員・幹事会議事要旨	1
◆第 8 回 日本分子生物学会年会における総会議事要旨	3
◆井上科学振興財団より	4
◆日産科学振興財団より	4
◆東レ科学振興会より	4
◆学術賞及び研究助成金の推薦について	4
◆会員名簿発行について	4
◆第 5 回 BMY 分子生物学奨励金受領者推薦募集について	4
◆第 14 回 核酸化学シンポジウム予告	5

◆日本分子生物学会昭和 60 年度 評議員・幹事会議事要旨

日 時：昭和 60 年 12 月 1 日 午後 5 時～ 8 時

場 所：京王プラザホテル

出席者：内田久雄（会長），藤永 恵，石浜 明，松原謙一，三浦謹一郎，
村松正実，小川英行，岡田吉美，大島靖美，大沢省三，小関治男，
豊島久真男，吉川 寛，由良 隆，池田日出男（庶務），山本正幸
（会計），関口睦夫（編集），大石道夫（集会）

〔I〕報告事項

- 1) 池田幹事より，11月1日現在における学会員数は，正会員 1,536 名，学生会員 296 名，賛助会員 23 社であることが報告された。
- 2) 昭和 60 年 4 月より事務局で行っている日常業務（住所変更，入会手続，会費納入）は学会センターに移管し，順調に進んでいる。
- 3) 日本学術会議第 13 期会員候補者のうち，分子生物学研連に係る会員候補者として渡辺 格氏を，また同じく推薦人として高浪 満，水島昭二両氏を本年 2 月に日本学術会議に推挙し，任命された。また第 13 期分子生物学研連委員 7 名を推薦した。
- 4) 昭和 60 年 1 月 28 日付で，本学会が特許庁の指定する学術団体として認められた。詳細は，会報 21 号，22 号を参照。
- 5) 山田科学財団より小関治男氏の「葉緑体の遺伝的制御」の研究に対し今年度研究援助金 500 万円が送られた。
- 6) BMY 分子生物学奨励金が大阪大学微研牧野耕三氏「大腸菌のリン酸レギュロンの発現調節機構」の研究に対して送られた。
- 7) 日産科学振興財団研究助成候補として，本学会選考委員の意見に従い，下記 2 件を推薦した。

次田 皓（東京理科大・理学部・教授）「国際蛋白情報データベースの設立，蛋白合成，特に DNA 転写機構および蛋白工学への情報論的アプローチ」

石浜 明（国立遺伝研・教授）「動物ウイルス増殖の細胞内支持機構の解析」

同じく東レ科学振興会研究助成候補として下記 2 件を推薦した。

石浜 明（国立遺伝研・教授）「遺伝情報転写調節機構の研究」

池田日出男（東大・医科研・助教授）「遺伝子の再編成と増幅に関する研究」

同じく井上學術賞候補として下記 1 件を推薦した。

石浜 明(国立遺伝研・教授) 「遺伝子の転写調節の研究」

8) 山本幹事より昭和59年度 会計収支決算が上代、三浦両会計監査により監査を受けたこと、および昭和60年度 会計収支中間報告が報告された。

〔Ⅱ〕 協議事項

1) 昭和61年度 予算について

山本幹事より、予算案が提示され、学会センターへの移管に伴う支出の見直し等が協議された結果、了承され、総会にはかることとした。

昭和61年度 予算案

収入の部

1 学会費(含入会金)	3,600,000
2 賛助会費	750,000
3 名簿広告費	1,400,000
4 預金利子	20,000
5 前年度からの繰越	4,500,000
総計	10,270,000

支出の部

1 事業費	2,100,000
会報発行	500,000
第9回年会プログラム	400,000
第9回年会特別講演謝金	200,000
第10回年会補助	1,000,000
2 評議委員会費	1,600,000
役員選挙(名簿作成)	1,400,000
委員会費	200,000
3 学会センター業務委託費	1,850,000
4 一般事務費	1,220,000
用品費	5,000
印刷費	15,000
通信費	800,000
謝金	400,000
5 予備費	3,500,000
総計	10,270,000

2) 昭和61年度 第9回年会について

昭和61年度 第9回日本分子生物学会は名古屋地区に決まり、年会会長は大沢省三名大理学部教授に委嘱することにした。つづいて、大沢氏より日本遺伝学会と合同で年会を開きたい旨の提案があり、総会に諮ることにした。

なお、年会の会期は 12月4日(木)～7日(日)、会場は名古屋観光ホテルの予定である。

3) 昭和62年度 第10回年会について

第10回年会につき協議した結果、場所は京都地区となる公算が大きい。

4) 日本生化学会より Journal of Biochemistry に Molecular Biology Section を作るのに協力してほしいとの要請があり、当学会としてはできるだけ協力す

ることとした。

- 5) 日本細胞生物学会が当学会と共同で雑誌を発行したいとの申し入れがあり、検討を続けることにした。

◆第8回日本分子生物学会年会における総会議事要旨

日 時 : 昭和60年12月4日 午後1時30分～2時

場 所 : 京王プラザホテル

- I) 議長として吉田光昭(がん研), 長田重一(東大)が 会長より推薦され、拍手で承認された。議長は、委任状 96 通を含め、総会の成立を確認した。

II) 経過報告

内田久雄会長あいさつの後、池田庶務幹事より前回総会開催以降の本会事業の経過について報告があった。

III) 議 事

- 1) 山本会計幹事より前年度会計収支決算報告があり、これを承認した。本年度事業計画および中間報告について説明があり、これを承認した。

来年度(昭和61年度)事業計画および予算について山本幹事より説明があり、これを承認した。

- 2) 中村義一会員(医科研)より、「本学会がますます大きくなり、570件を越す演題が機会均等で発表されている。このことはこれまで小さな会でゆくり討論できたよさを失うことにもなった。次回からの本大会の運営では、このことに関して何か工夫ができないだろうか」との発言があった。

- 3) 富沢純一氏(N.I.H.)(学会員でなく、議長の承認のもと参考発言として)より「最近、研究者が仕事をマスコミ(新聞やテレビ)で発表するのがよくみられる。これらの仕事は他の研究者により評価されていないことが多く、その仕事に対するいわゆる識者のコメントもかなりいいかげんである。研究者は自分の仕事が社会に与える影響をもっとよく考えるべきである。外国の科学雑誌には投稿した論文がその雑誌に掲載されるまでマスコミに発表しないことを条件にしているものもある。自分の仕事をマスコミに発表するのは、その仕事が科学雑誌に掲載され、他の科学者により批判された後にするという了解を本学会の agreement としたらどうか」との発言があった。

これに対して会長より、「本大会においても、学会発表以前に新聞などで報道された演題がみられたが、遺憾である。報道関係者にも、学会発表が終ってから取材し記事にすることを願う」との答弁があった。

4) 次回年会について

大沢省三氏より第9回年会について説明があった。日本遺伝学会との合同年会として開催することが了承された。

◆井上科学振興財団昭和60年度井上學術賞 石浜 明氏に授与

井上科学振興財団より石浜 明氏(国立遺伝研)「遺伝子の転写調節の研究」に対し昭和60年度(第2回)井上學術賞が授与された。

◆日産科学振興財団昭和60年度研究助成金 次田 皓氏へ

日産科学振興財団より前述の次田 皓氏(東京理科大)に対し昭和60年度研究助成金が送られるとの連絡があった。

◆東レ科学振興会昭和60年度研究助成金 石浜 明氏へ

東レ科学振興会より前述の石浜 明氏(国立遺伝研)に対し昭和60年度研究助成金が送られるとの連絡があった。

◆學術賞及び研究助成金の推薦について

學術賞及び研究助成金の当学会よりの推薦は、当学会選考委員の意見に従って行いますが、そのために必要な資料及び日時は次の通りです。

1. 資料 申請資料及び論文
本申請に必要な部数 プラス当学会選考委員用5部(実筆を含む)
2. 締切日 本申請締切日の3週間前まで

◆会員名簿発行について

当学会は会員が急増しましたので、従来の会員名簿(昭和59年12月発行)の不備が目立つようになってきました。今回、新しい会員名簿を作りましたのでご利用下さい。

◆第5回BMY分子生物学奨励金受領者推薦募集について

上記につき選考は本学会に依頼されましたので推薦を受けたい方は下記に従って応募して下さい。

1. BMY分子生物学研究奨励金応募者の資格
次の各号に掲げる者で優秀な研究能力を有し、適当な指導者の指導を受けて研究に専念しようとする者
 - i) 大学院に在学中の者で所属教室の教授、指導教官(日本分子生物学会会員で

あること)の推薦をうけて応募する者

- ii) 特に学位取得後1年以内の者で、所属研究機関の教授、指導教官(日本分子生物学会会員であること)の推薦をうけて応募する者

2. 贈呈件数と金額

1件1名 研究奨励金 50万円

3. 応募方法及び締切日

以下の書類等を昭和61年5月31日必着で、日本分子生物学会事務局まで郵送する。応募書類等は原則として返還しない。

- i) 所定の応募用紙に必要事項を記載したもの 5部(コピーも可)
ii) 論文目録に記載された論文の別刷 5部(コピーも可)

4. 応募用紙 請求先

ベーリンガー・マンハイム山之内株式会社

学術部バイオケミカル課 研究奨励金応募係

〒101 東京都千代田区神田多町2丁目9番地

神城ビル内

TEL 03-252-2781

5. 応募書類郵送先

「日本分子生物学会」事務局

〒108 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所

生物物理化学研究部内

◆第14回 核酸化学シンポジウム

共催 日本分子生物学会・他

1. 日時 昭和61年10月30日(木)～11月1日(土)
2. 会場 徳島県郷土文化会館大会議室
徳島市藍場町2 電話 0886(22)8121
〔交通〕 国鉄徳島駅より徒歩10分
3. 討論主題 核酸および関連物質の有機化学、物理化学、分析化学および生化学
4. 発表時間 1演題につき約20分(質疑応答を含む)。なお、講演申込は原則として1研究グループ1題とします。
5. 講演申込締切 昭和61年6月14日(土) 必着
B5判大の用紙に 1) 演題, 2) 発表者の所属, 氏名(講演者

に○印), 3) 連絡先(郵便番号, 電話番号を含む), 4) 和文要旨(約200字)を記入し申込受領通知用の葉書(返信宛先および演題名を記入のこと)を添えて下記連絡先へお申込み下さい。申込者には講演要旨用の原稿用紙をお送りしますので, 英文要旨(4ページ以内)を作成の上, 締切日厳守でご返送下さい。

要旨集は Nucleic Acids Reseach Symposium Series (1986) として発行されます。

6. 講演要旨英文原稿締切 昭和61年7月12日(土) 必着
7. 参加予約申込締切 昭和61年10月4日(土)
氏名, 所属, 連絡先および懇親会への出欠を明記の上, 郵便振替では「徳島1-35689番, 第14回核酸化学シンポジウム」宛または現金書留では下記連絡先宛にご送金下さい。
8. 参加費(当日渡しの要旨集代金を含む)
予約受付 4,500円 当日受付 5,000円
9. 懇親会 昭和61年10月30日(木)夕刻 阿波観光ホテル(徳島市一番町3-16-3 電話 0886(22)5161)
会費 5,000円
10. 連絡先 〒770 徳島市山城町西浜傍示180
徳島文理大学薬学部薬品化学教室
本庄美喜男(または丸山徳見)
電話 0886(22)9611 内線 310, 361, 241